

心の交流は
距離と時間を超える



今月の表紙



国際親善姉妹都市である米国アイダホフォールズ市の一般訪問団が、約5年ぶりに来村。

「ただいま」「おかえり」があちらこちらから聞こえてきた歓迎会での一コマです。

「開かれたムラ」の物語

皆さんは「交流」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。

東海村は、東西南北ともに7.9キロメートル、総面積は38平方キロメートルしかない、とても小さな村です。太古の昔から、水辺の特徴を生かして、「ひと・もの・文化」が行き交っていました。多くの人々が集い、「開かれたムラ」として発展してきた痕跡が、村内各地に残されています。

そこには、人を通した「交流」の歴史が存在しています。国立結核療養所「村松晴風荘(現・独立行政法人国立病院機構茨城東病院)」の誕生や、村松村と石神村の合併、原子力研究開発の拠点の設置など、各地からさまざまな人が集まり、交流の物語が紡がれてきた東海村。この物語は今後、どのように続いていくのでしょうか。



これからの交流を考える

令和2(2020)年1月、国内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認されてから約3年もの間、私たちは日常生活において、外出や移動、人との接触が制限され、対面での交流ができない期間を経験しました。その間、デジタル技術を活用したオンライン上での交流など、新たな交流スタイルが確立する一面もありました。しかし、制限が解除され、かつての日常が戻りつつある今、やはり実際に会い、顔と顔を合わせることができると、対面での交流が見直されてきています。

今回の特集では、村がきっかけを創出する都市間での交流機会と、その交流に関わる方々の想いに注目しました。特に、国際親善姉妹都市の盟約から43年が経過し、今年11月に約5年ぶりの来村が実現した、米国アイダホフォールズ市との国際的な交流と、今年度から新たに創設された、小学5年生から中学1年生までを対象とした「東海村ジュニアアンバサダー」のプロジェクトをご紹介します。

皆さんも、交流した方々の視点や経験を通して、距離と時間を超える「心の交流」を体験してみてください。

村と米国アイダホフォールズ市が、昭和56年に国際親善姉妹都市の盟約を締結してから43年。この間の相互の訪問者数は、延べ1,000人以上にも上ります。今年度は、約5年ぶりに18人の一般訪問団員が来村。原子力関連施設や村松晴嵐「クロマツ林」などの見学、和菓子づくり体験などを通して、村民との交流を深めました。

特集 心の交流は距離と時間を超える

30周年記念式典を
東海村で開催

30th

東日本大震災の影響で延期していた30周年記念式典を村で開催。一般訪問団(18人)が来村し、東北地方への視察等を行いました。



40周年記念式典を
オンラインで開催

40th

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで式典を開催。これまでの交流の歴史を映像で振り返り、記念品を交換しました。



5年ぶりの再会!

Now

今年11月、アイダホフォールズ市から一般訪問団(18人)が来村。5年ぶりの再会に、笑顔があふれました。



2013年

2021年

現在

R6.11.4 和菓子作り体験



R6.11.4 東海村文化祭



R6.11.1 笠間市訪問



R6.10.31 歓迎会



R6.10.31 JAEA見学



R6.11.1 アンギン編みコースター作り



We would like to further develop the content of the sister city exchanges between Tokai-mura and Idaho Falls City.

東海村とアイダホフォールズ市の姉妹都市交流について、さらに交流の内容を発展させていきたい。

アイダホフォールズ市長
Rebecca Casper
(レベッカ・キャスパー)



アイダホフォールズ市との国際交流

これまでの交流の歴史

国際親善姉妹都市
盟約の調印

0th

ともに原子力の研究機関が立地し、互いに研究者等が行き来していたこともある縁から、国際親善姉妹都市の盟約を結びました。



1981年

10周年記念式典を
アイダホフォールズ市で開催

10th

村から一般訪問団(16人)が参加。アイダホフォールズ市に建設が予定されている日本庭園に、友情の絆として灯笼2基を贈りました。



1991年

20周年記念式典を
東海村で開催

20th

アイダホフォールズ市から一般訪問団(32人)が来村したほか、グランドファーザークロックとカウボーイの衣装が贈られました。



2001年



「IDAHO GOVERNOR'S VALUED PARTNER AWARD」を受賞！

アイダホ国立研究所の貴重なパートナーであるとともに、アイダホ州の友好的な都市としての貢献がたたえられ、東海村へ「IDAHO GOVERNOR'S VALUED PARTNER AWARD (アイダホ州知事の貴重なパートナー賞)」が贈られました。

これを受け、11月8日、駐日米国大使公邸(東京都港区)で、Brad Little (ブラッド・リトル) アイダホ州知事から山田村長へ表彰状が手渡されました。

R 6.11.5 県外視察(群馬県・伊香保温泉)



R 6.11.7 送別会



これまでの姉妹都市交流を継続しながら、新たな分野の交流に取り組んでいきたい。

We would like to work on new areas of exchanges while continuing our sister city exchanges so far.

東海村長
山田 修

子どもたちだからこそ生まれる交流



街歩きガイドツアー終了後、飛騨市立神岡中学校の生徒に感謝を伝えながら、握手して親交を深めるメンバー



街歩きガイドツアーで立ち寄った「洞雲寺」で、飛騨市立神岡中学校の生徒や東京大学の教授たちとの集合写真



スーパーカミオカンデの施設内でニュートリノ観測の説明を受けるメンバー

ジュニアアンバサダーを育成

現在、村とつながりのある国内都市(県外自治体)には、「災害時における相互応援協定」を締結している5自治体(長崎県川棚町、三重県菰野町、富山県砺波市、新潟県妙高市、大阪府熊取町)のほか、「原子力研究開発推進自治体協議会」で共に活動する2自治体(青森県八ヶ所村、岡山県鏡野町)があります。また、岐阜県飛騨市とは、JIPARCとスーパーカミオカンデで行われている最先端の研究であるT2K実験でつながりがあります。

村では、令和6・7年度の2年度で国内交流「東海村ジュニアアンバサダー」事業を行っています。これは、来年3月に東海村が村政70周年を迎えるにあたり、村内の子どもたちを「アンバサダー大使」として育成し、子どもたちを通して、国内のつながりがある自治体と継続的な交流や次世代交流のきっかけづくりを行うことを目的としています。同時に、子どもたち自身が外から村を見つめる機会を得ることで、「広い視野の醸成」や「地域への参画意欲を高める」などの効果も期待しています。

現在、村内の小学5年生から中学1年生までの14人が、東海村ジュニアアンバサダーとなって活動しています。今年度は岐阜県飛騨市のスーパーカミ

生まれ育った東海村の好きなところを聞いたところ、こちらも口をそろえて「自然が豊かで公共施設がきれいで、何よりみんなやさしいところが好きです。登下校ですれ違う方みんながあいさつを返してくれるんですよ」と教えてくれました。

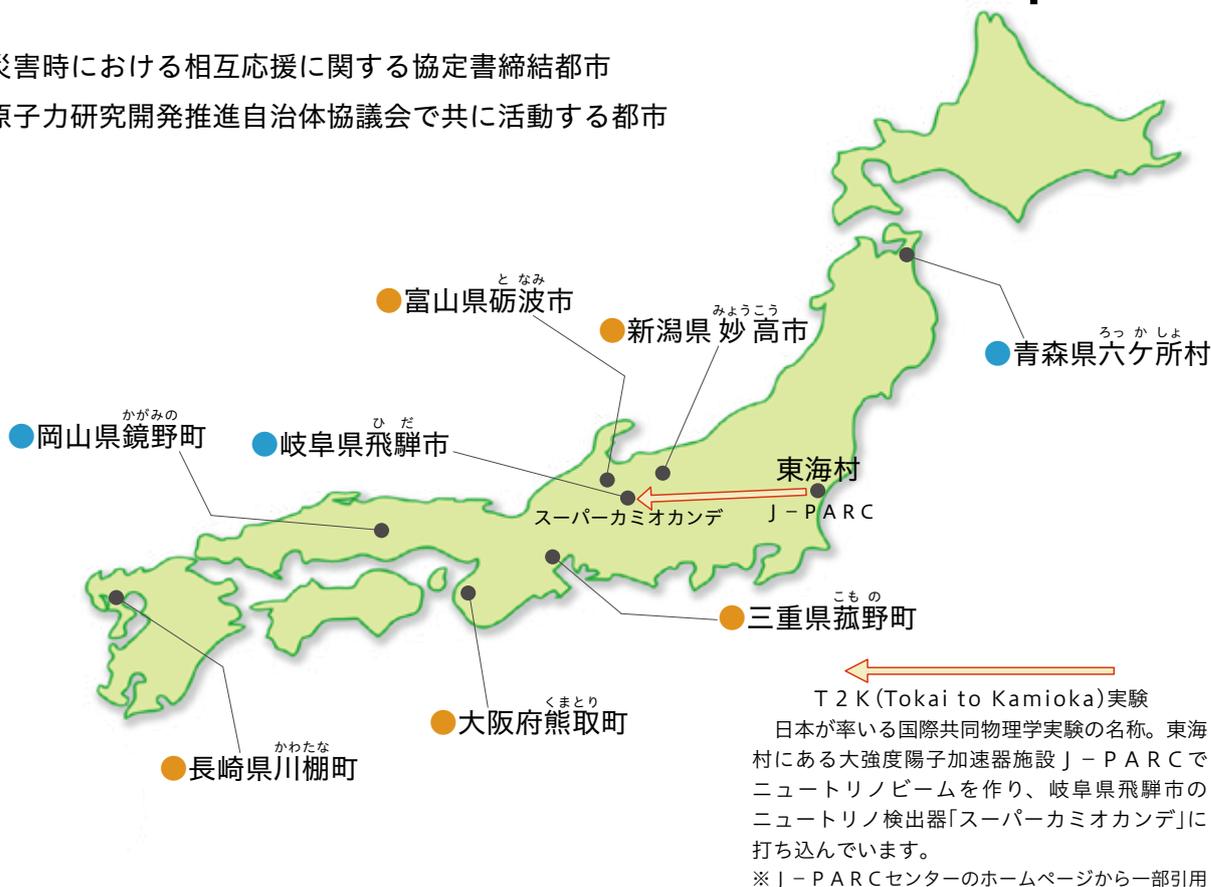
2人ともこの2年間での新たな出会いを一番の楽しみにしているとのこと。来年度に予定されている報告会で、より成長したメンバーの姿が見られることが今から楽しみです。



松森さんと鈴木さんは、村内の小学6年生。普段はそれぞれ違う小学校に通っていますが、週末は一緒にホッケーに打ち込む仲良しコンビです。どうしてジュニアアンバサダーに参加しようと思ったのか聞いたところ、口をそろえて「まだ知らない街を知ることができると貴重な機会だと思い、自分が見たことや聞いたことを友だちに教えてあげたい、自分の視野を広げるきっかけにしたい、と思ったからです」と答えてくれました。

国内で“つながり”のある主な都市Map

- 災害時における相互応援に関する協定書締結都市
- 原子力研究開発推進自治体協議会で共に活動する都市



オカンデを視察するとともに、現地の子どもたちとも交流しました。令和7年度は大府熊取町の子どもたちとの交流に加え、大阪万博取材することを予定しています。

人は移動するほど幸せを感じる

「コロナ禍で旅行に行けなかったから、その分これから行きたいと思っている」という方も多いかと思えます。

令和2(2020)年、アメリカのマイアミ大学の研究チームによって、「人は移動するほど幸せを感じる」という研究結果が発表されました。旅行など、新しい場所やお気に入りの場所を訪れることにより、景色や食事、体験などを通して、日常生活から離れた体験に人々は幸せを感じるのだそうです。そして、そこには新しい人との出会いがあり、自分を成長させることができるきっかけもあることでしょう。

とは言え、日常生活を送る上で、自由に旅行などの移動ができる方だけではないと思います。そのような方は、自分が移動できなくても、オンラインや相手に来てもらうことで遠くの方々と交流し、「移動した経験」を得ることもできます。

村では、国内都市や国際都市とのさまざまな交流機会を企画しています。あなたも一歩を踏み出して、一緒に新しい交流の扉を開けてみませんか。